

2. 事業の概要と成果

(1) 上位目標の達成度	エチオピアの2都市並び周辺の障害をもつ子供達に180台の車椅子を供与することにより、身体の保持、外出する自由度を増やし、障害児と保護者の日常生活が大幅に改善された。地域社会へのとけ込み、治療、学習機会への接近は子ども達の自立への大きな力となった。
(2) 事業内容	<p>1. 国内での収集、清掃、整備作業は定例会、青少年自立センターでの作業で順調に進み、アジスアベバへ向け3月、バハルダールへ向け4月に船積みを完了することができた。</p> <p>2. 現地引渡し式 内容</p> <p>① 5月22日にアジスアベバ市政府社会労働福祉局事務所においてEphren Gizawk局長参加で引渡式並びに当会の活動内容の紹介を行なった。式には15名近くの子どもが参加した。当会からは理事秋子孝男が参加した。今年度でチェシャ財団を通じ累計520台をエチオピアに贈ったことになるが、アジスアベバ地区は初めてで、家庭訪問の機会は無かった。</p> <p>② 7月18日にバハルダール市のチェシャ財団施設にて引渡式を行なった。この引渡式には在エチオピア日本大使館より板倉純子二等書記官、市政府労働福祉局アレムネ・モラ局長が参加された。50人近くの子どもが参加していた。</p> <p>バハル・ダールでは使用状況を観ることができる家庭訪問を行なった。当会からは理事桑山昭ほか会員が参加した。</p> <p>③ 現地スタッフへのプレゼン資料にてメンテナンスの基本虫ゴム交換、安全な使用方法についてピントグラム資料にて衆知を図った。</p>
(3) 達成された成果	<p>1. 今回も比較的廉価な一般用車椅子さえ利用することができない困窮生活者の障害をもつ子供への供与が実現できた。子ども用車椅子の利用で身体成長、精神面での安らぎを手にし、より強い生命力を得ながら子ども並び保護者のQOL向上に寄与できた。</p> <p>2. アジスアベバ市政府Gizaw氏は親戚にも障害児がいるとの話で今後機会があれば車椅子の配布にあたり専門家を巻き込んで最も適する子どもに配ることをチェシャ財団と協力したいと話してくれた。</p> <p>3. まだまだ発展途上の同国であるが、引渡式に参加、準備に参加する市政府などの若いスタッフが初めて見る子ども用車椅子に強い興味を示しながら真剣に保護者と会話しているシーンを観ることができた。貧しさのなかで障がいをもつ子供を育て続ける家庭との共生社会の実現の一助となることを確信した。</p> <p>4. 成果を測る指標</p> <p>① 外出して新鮮な空気を水、紫外線にあたる頻度が増えたか 成果：100% A</p> <p>② 身体的精神的に改善が有ったか 成果：70% B</p> <p>③ 家族の介護の負担がどれだけ軽減できたか 成果：90% A</p>

	<p>④ 友達や地域の人々と交流する機会が増えたか</p> <p>成果 : 90% A 総合評価 A</p> <p>上記の項目について引き渡し後 1 年後に達成度合いを 3 段階評価 (A, B, C) で評価。評価 A, B, C の数の合計数によって総合評価をし、供与対象者の 80 %が総合評価 A と評価される。</p> <p>成果指標については、現地との交信 (skype 電話など) 結果をもとにまとめた。現地での CP と裨益者間で 2019 年 6 月から 8 月中旬にかけヒアリング確認が行われ概ね 70% の回答を確認したとされている。</p>
(4) 持続発展性	<p>1. チェシャ財団の貸与者リストのアップデート、車椅子の状態の維持が当会が考える以上に難しいことも理解できた。そこを押して再度当会の主旨である清掃、簡単な整備を通して現地ベースでもリユースが可能な運用強化を依頼した。現地ベースではチェシャ財団のフィールドスタッフなどの活動で車椅子活用が急がれる家庭が選定されているが、住所、電話番号など連絡先が定まらず、親の仕事と共に転居してしまうケースなどを聴取したが、具体的なアドバイスに詰まってしまうこともあった。</p>